



山形県がん生殖医療ネットワークにおけるミニWSの経験



山形大学医学部 産科婦人科学講座
松川 淳



Oncofertility Consortium Japan 2024年度 全国ワークショップ

利益相反状態の開示

演者氏名： 松川 淳
所 属： 山形大学医学部 産科婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

山形県



面積 9,325km² (9位)

人口 103万人 (36位)

YAMAGATA,
THE RAMEN CAPITAL
OF JAPAN



ラーメンの
聖地、山形市



がん・生殖医療

Oncology + Fertility = Oncofertility

- がん・生殖医療 (Oncofertility) とは、
がん治療前～治療終了後の患者の将来的な妊孕性を維持
あるいは促進する医療

2012年 日本がん・生殖医療学会 設立

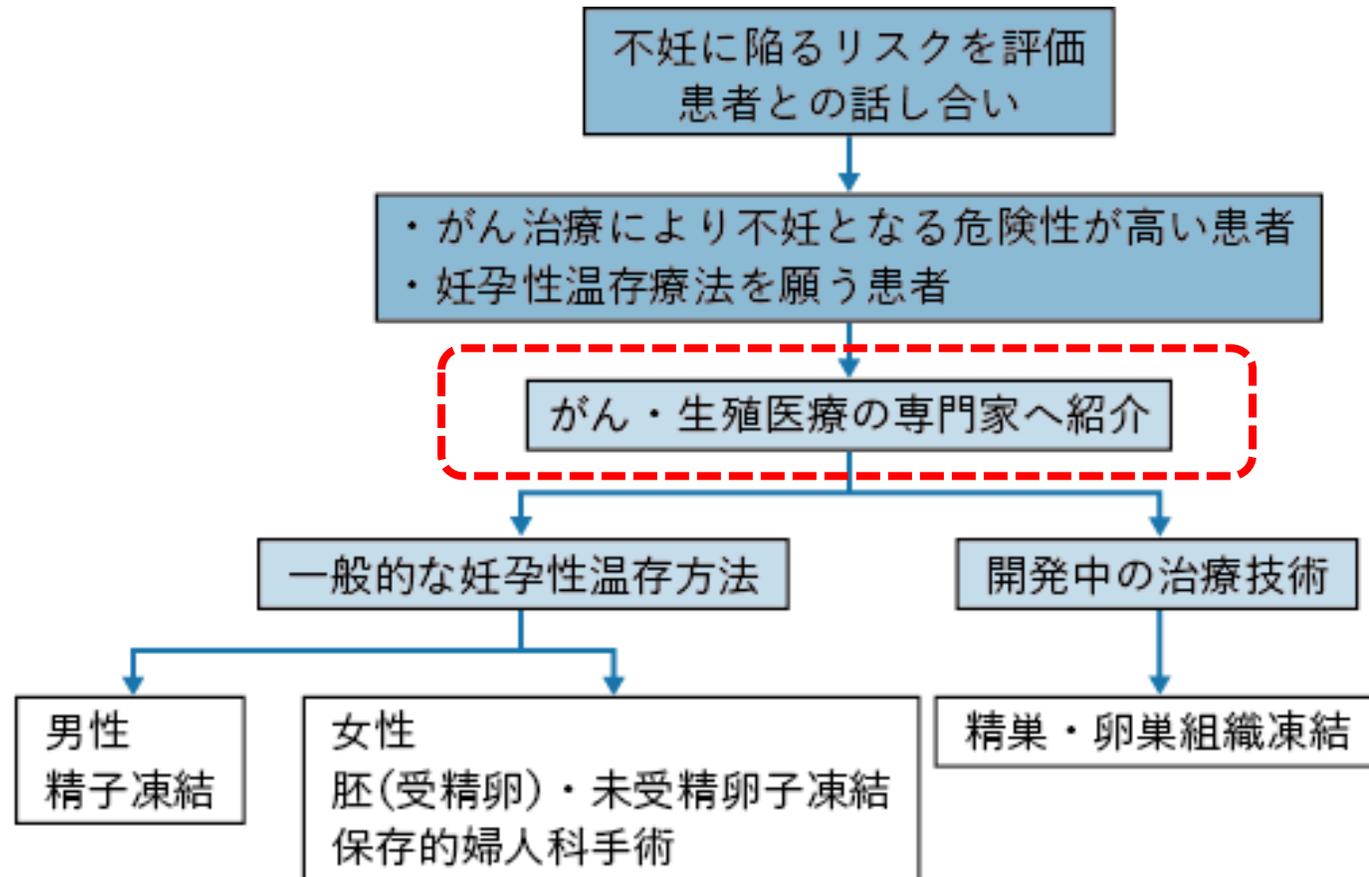
The screenshot shows the homepage of the Japanese Society of Cancer and Fertility Medicine (JSCF). The header includes the society's name and a search bar. The main image features a doctor examining a child's hand, with the text "希望を持って がんの治療に取り組む" (Engage in cancer treatment with hope). A navigation menu at the bottom lists various topics: 学会の取り組み (Society's activities), 妊孕性温存 (Fertility preservation), がん治療別 (By cancer treatment), がん疾患別 (By cancer type), 小児がん (Pediatric cancer), and がん治療後の妊娠 (Pregnancy after cancer treatment). A footer message reads "妊孕性温存の情報を的確なタイミングで" (Provide fertility preservation information at the right timing).

The cover of the 2017 JSCO Clinical Practice Guidelines for Fertility Preservation in Childhood, Adolescent and Young Adult Cancer Patients. The title is "小児, 思春期・若年がん患者の 妊孕性温存 に関する診療ガイドライン" (Clinical Practice Guidelines for Fertility Preservation in Childhood, Adolescent and Young Adult Cancer Patients 2017). The publisher is 一般社団法人 日本癌治療学会 (The Japanese Society of Cancer Therapy).



The cover of the 2024 Clinical Practice Guidelines for Fertility Preservation in Childhood, Adolescent and Young Adult Cancer Patients. The title is "小児・AYA世代がん患者等の 妊孕性温存に関する 診療ガイドライン" (Clinical Practice Guidelines for Fertility Preservation in Childhood, Adolescent and Young Adult Cancer Patients 2024). The publisher is 日本癌治療学会 (The Japanese Society of Cancer Therapy).

若年がん患者に対する妊孕性温存のアセスメント



小児,思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2017年版

がん治療医およびその診療に関わる医療従事者は、**妊孕性温存**に関して患者の**意思決定の補助**を行う必要がある

がん診療連携拠点病院等の整備について



別添

がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針

II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

2 診療体制

(1) 診療機能

⑥ それぞれの特性に応じた診療等の提供体制

- がん・生殖ネットワークへの加入
 - 院内での妊孕性温存支援整備
- は指定要件

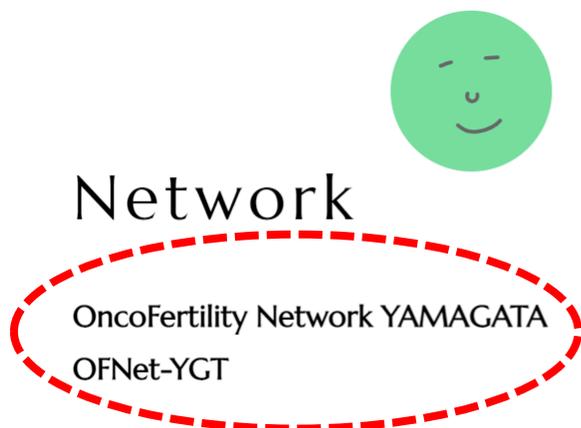
制を整備すること。自施設において、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めること。

エ 就学、就労、妊孕性（注11）の温存、アピアランスケア（注12）等に関する状況や本人の希望についても確認し、自施設もしくは連携施設のがん相談支援センターで対応できる体制を整備すること。また、それらの相談に応じる多職種からなるAYA世代支援チームを設置することが望ましい。

A世代
に、対
。患者
て、院
法及び
行う体

山形県におけるがん・生殖医療ネットワーク

2021年に立ち上げ



Yamagata

生殖医療施設

Reproductive Medicine

[View More](#)

日本産科婦人科学会
医学的適応による凍結・保存に関する登録施設

山形大学医学部附属病院

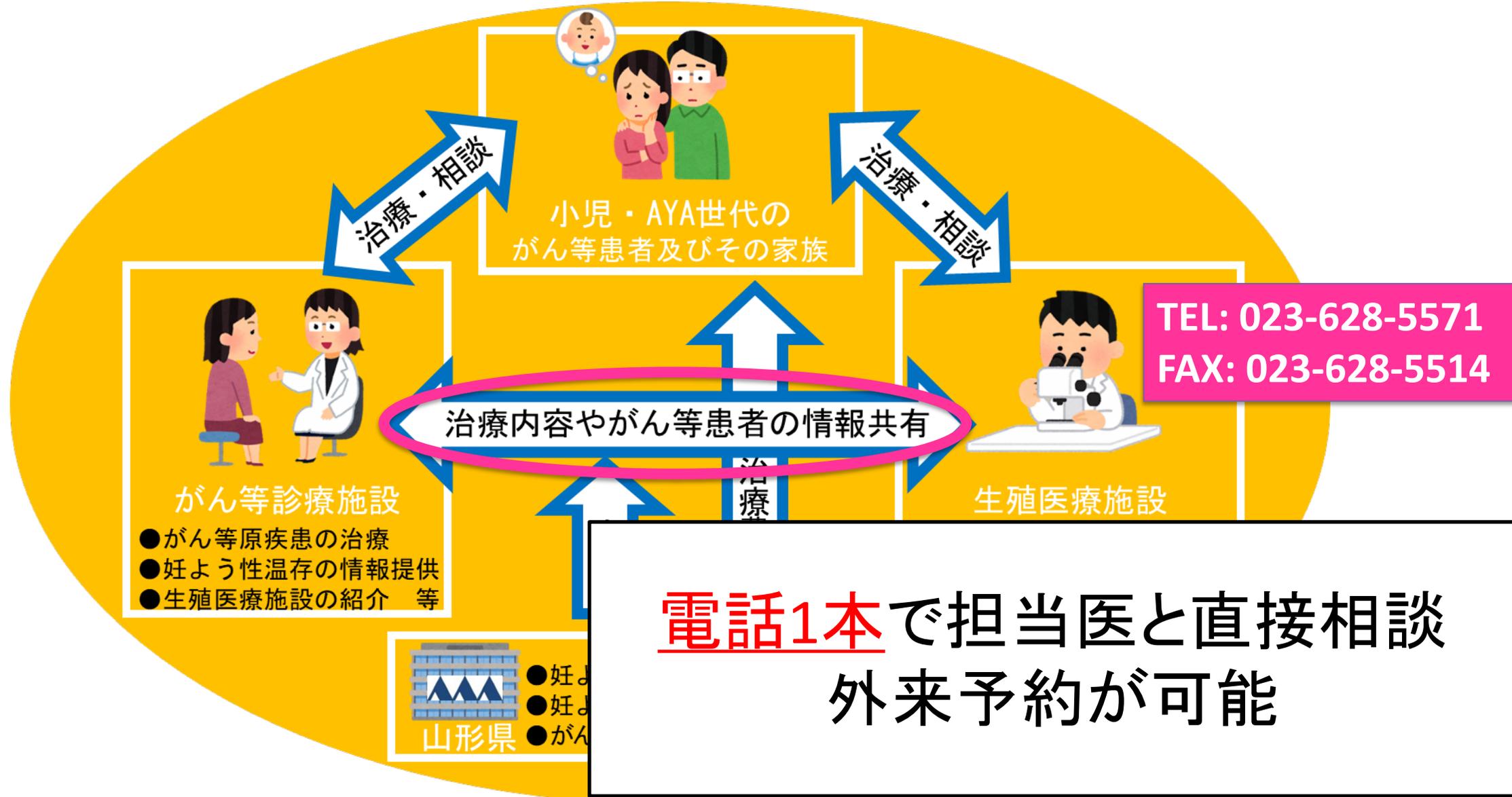
ゆめクリニック

その他の医療施設

準備中

現在はすべてのがん生殖における
妊孕性温存を、大学病院で行っている

OFNet-YGT: 山形県がん・生殖医療ネットワーク



山形県がん・生殖医療ネットワークの周知

(案)

令和2年度山形県がん診療連携協議会 がん患者相談室部会
次 第

山形県がん診療連携協議会 がん患者相談室部会

- 山形県立中央病院(村山地域)
- 山形県立日本海総合病院(庄内地域)
- 山形県立新庄病院(最上地域)

3 協 議

(1) がん患者相談員スキルアップ研修会について (資料6)

(2) 生殖医療ネットワークの構築について (資料7)

(山大松尾先生、事務局軽部副部長)

4 その他

5 閉 会

* がん患者相談室部会メーリングリスト アドレス
gan_consult@googlegroups.com

妊孕性温存療法セミナー in 山形



開催日時

2022年 9月 14日(水) 18:00～19:00

登録締切: 9月13日

回線録画

オンラインセミナーの開催(企業主催)

対象: 県内関連診療科の医療従事者
50名の医療スタッフが参加した

演 者 | 山形大学医学部 産科婦人科学講座 助教
松川 淳 先生

山形県における妊孕性温存治療費助成事業について

演 者 | 山形県健康福祉部 がん対策・健康長寿日本一推進課

Session2

がん患者の妊孕性温存における意思決定支援について

座 長 | 山形大学医学部 外科学第一講座 准教授
河合 賢朗 先生

演 者 | 昭和大学保健医療学部 看護学科 教授
渡邊 知映 先生

Closing remarks

山形大学医学部 産科婦人科学講座 教授
永瀬 智 先生

- 本セミナーは、オンライン (ZOOM) を使用したセミナーとなっております。
- 事前に参加登録を頂いた医療関係者の方に限りご視聴頂くことが可能です。
- 右上の二次元コードか、リンクから事前参加登録をお願い致します。

【お問い合わせ先】中外製薬株式会社 (担当: 今野)
山形市城南町1-1-1 露城セントラル
Tel: 022-225-8551 (受付時間 平日 8:45-17:30)

主催 中外製薬株式会社 / 後援 山形県

第20回 日本乳癌学会東北地方会 ~Tohoku Breast Cancer Week~

乳癌学会地方会シンポジウム

東北の乳腺外科の先生方に
各県の妊孕性温存について紹介

ハイブリッド開催
現地開催+ライブ配信

2023年
3月1日(水)~5日(日)

会 場 仙台国際センター
会 長 石田 孝宣
東北大学大学院医学系研究科
乳腺・内分泌外科学分野 教授
角川 陽一郎
仙台赤十字病院
院長補佐 / 外科主任部長

青森: 弘前公園の桜
秋田: 乳岩館の桜
岩手: 小国神社の桜
山形: 鶴岡公園の桜
宮城: 白石川
福島: 三春桜

当科における妊孕性温存療法施行症例(2021年4月～2023年6月)

精子凍結		卵子凍結		受精卵(胚)凍結	
年齢	疾患	年齢	疾患	年齢	疾患
33	AML	23	卵巣がん	41	乳がん
19	悪性リンパ腫	22	AML	31	乳がん
29	ALL	39	乳がん	40	乳がん
25	悪性リンパ腫	35	乳がん	32	乳がん
25	精巣がん	39	乳がん	39	虫垂がん
26	悪性リンパ腫			38	乳がん
14	骨肉腫				
38	悪性リンパ腫				
16	精巣がん				
24	悪性リンパ腫				
16	悪性リンパ腫				
24	縦隔腫瘍(セミノーマ)				
30	悪性リンパ腫				
24	再生不良性貧血				
31	AML				
20	肺癌				
23	縦隔腫瘍(セミノーマ)				
23	Ewing肉腫				
27	CML				

合計30名の妊孕性温存を実施

男性:血液疾患が最多(12/19人)

女性:乳がんが最多(8/11人)

- ・自施設内、他院からもそこそこ紹介は来るようになった
- ・これで山形のがん生殖は大丈夫？

実はそうではなかったことが、
OCJのアンケートにより露呈された



2023年
ネットワー
OCJから、山形のがん生殖ネットワーク構築に向け、
ワークショップ開催を提案いただいた

構築したと思っていたネットワークは「張りぼて」であった

- ・ 生殖担当医の一人歩き
- ・ がん治療医、生殖担当医、県の連携が取れていない
- ・ 担当者の顔が見えず誰が何をしているかわかりにくい
電話しにくい

2023年

ネットワー

当学会では、厚生労働省の調査結果を把握し、その中で持続可能な地域ネットワークの構築を推進しています。具体的には、ネットワークに関する調査は年1回の定期調査を予定しております。そこで、今年度第1回目のネットワークの構成に関するアンケートとして、貴ネットワークの状況について、下記の設問にご回答をお願い申し上げます。

OC Japanでは、ネットワーク間の相互支援のためには「顔の見える関係」を構築していくことが大切だと考えております。個人名の入力は、行政の担当者様におかれましては、変更頻度が多くなるかもしれませんが、事務局から年2回の定期確認をさせていただきますので、できるだけお名前のご提供も頂きますようお願い申し上げます。

- 事業名：小児・AYA世代のがん患者等における妊孕性温存療法の研究促進事業
- 調査件名：厚生労働省委託事業「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」地域がん・生殖医療ネットワークの構成と機能 実態に関するアンケート
- 期間：2023年5月2日～5月31日
- 対象：全国の都道府県がん・生殖医療ネットワークにおける、がん診療施設・生殖医療施設・行政部局

ワークショップ内容

Oncofertility Consortium Japan ミニワークショップ@山形

～山形県のがん・生殖医療ネットワークを考える～



日時：2023年11月30日（木）18時00分～20時00分

会場：「山形医学交流会館」（山形大学医学部構内）

形式：ハイブリット開催

- 山形県がん・生殖医療ネットワークの紹介
- モデルケースで学ぶ実際の運用方法
- 持続可能ながん・生殖医療ネットワーク
～岐阜県での取り組み～
岐阜大学成育医療センター 古井辰郎 先生
- 特別講演
がん拠点病院における多職種による意思決定支援
大阪国際がんセンター 多田雄真 先生

【参加登録】

下記URL、またはQRコードより登録をお願いします。

<https://forms.gle/DHx2Q7jxSvgxZeRN9>



登録締切：11月10日（金）

お問い合わせ 山形大学医学部 産科婦人科 担当：松川淳
E-mail：j-matsukawa@med.id.yamagata-u.ac.jp

主催：Oncofertility Consortium Japan 共催：山形県、山形県がん診療連携協議会

- ハイブリット開催で行った
- 顔が見えるネットワークの構築を目標としていたこともあり、特にコアメンバーの方々には**可能な限り現地参加**をお願いした
- 山形県のネットワーク、妊孕性温存の実際について紹介
- **ケーススタディを中心に置き、全体で議論できるようにした**
- ロールモデルとして、岐阜県のネットワークのご紹介
- さらなる発展モデルとして大阪国際がんセンターAYAチームのご紹介

ケーススタディ内容

36歳女性 乳癌

ケーススタディ 1

以下の症例について、グループ内でディスカッションをしてください。

★マークの設問をグループディスカッションのテーマの参考としてください。

●1-1

Xさん(36歳、女性)は、第2子希望あり近医で不妊治療を受けていました。近日行った乳癌検診で右乳房の腫瘍を指摘され精査目的に貴院乳腺外科を紹介されました。針生検の結果はトリプルネガティブ乳癌で、手術と化学療法を行う予定になりました。Xさんの実母にも乳癌の既往があります。

★ がん治療医の観点から、この患者さんにどのような情報提供を行いますか。またどのような手順で生殖医に紹介しますか？

●1-2

Xさんは、妊孕性温存に関するカウンセリングを希望され、貴院産婦人科に紹介されました。

★ 紹介受診時に必要な情報は何か？
妊孕性温存についてどのような説明を行い、意思決定を支援しますか？

●1-3

Xさんは、受精卵(胚)凍結を希望されました。

★ 山形県で受けることができる助成にはどのようなものがありますか？
助成を受ける際に必要な手続きは何か？

16歳男性 急性リンパ性白血病

ケーススタディ 2

以下の症例について、グループ内でディスカッションをしてください。

★マークの設問をグループディスカッションのテーマの参考としてください。

●1-1

Yさん(16歳、男性)は、全身倦怠感と発熱で近医を受診し、血液検査で白血球の異常高値を認め、A病院(妊孕性温存はできないがん治療施設)に紹介受診しました。検査の結果、急性リンパ性白血病と診断し、結果説明で両親とともに受診しました。

★ がん治療医の観点から、この患者さんにどのような情報提供を行いますか。
★ 妊孕性温存の担当施設への紹介の手順はどのようにしますか。紹介元病院のがん治療医の立場と、A病院の産婦人科医の立場、がん相談支援センターの立場からコメントをお願いします。

●1-2

Xさんは、妊孕性温存に関するカウンセリングを希望され、妊孕性温存可能なB病院に紹介され、両親とともに受診しました。

★ 妊孕性温存についてどのような説明を行い、意思決定を支援しますか？
★ 紹介前になるべく患者へ伝えられていることが望ましいことはありますか？
★ 凍結を希望した場合、どのような手順ですみますか？
★ 凍結を希望した場合、看護師の立場からどのように関わりますか？ 両親への関わり方についてもコメントをお願いします。

●1-3

Yさんは、精子凍結を希望されました。

★ 山形県で精子凍結について受けることができる助成について、女性の卵子凍結および胚凍結と異なる点についてコメントしてください。
★ 長期フォローをする際に、手続き上必要な点を行政の立場と産婦人科の立場からコメントしてください。
★ 凍結精子の使用を希望された場合、必要となるものは何か？

- ワークショップの時間に限りがあるため、事前にコアメンバーをグループ分けし、予定発言者を決めておいた
- グループごとに打ち合わせを行い、当日の論点をまとめておいた

OCJpnミニワークショップ@山形 (2023年11月30日 18:00~20:00)



現地参加 32名
web参加 74名



ワークショップ開催後の変化①

がんの患者さん・治療医が妊孕性温存を考えたとき

● 妊孕性温存療法とは

手術や化学療法、放射線治療などの“がん治療”によって性腺がダメージを受け、妊孕性（妊娠できる能力）が低下することが知られています（高リスク～低リスクに分類）。近年の生殖医療や凍結技術の発達により妊孕性温存の取り組みが進んでおり、配偶子（卵子・精子）や胚（受精卵）を凍結することが可能になっています。女性では、未婚の女性のための妊孕性温存の方法として（未受精）卵子凍結が、既婚（もしくは、パートナーあり）の女性のためのために胚（受精卵）凍結があり、これらはすでに「確立された治療法」として認められています。また、小児患者さんや治療までに時間のない患者さんのために**卵巢組織凍結**があります。男性では、精子を凍結することができ、極めて一般的な方法として認められています。

2024.4 山形大学産婦人科生殖医療チーム作成

	胚（受精卵）凍結	（未受精）卵子凍結	卵巢組織凍結	精子凍結
対象年齢	18～45歳	初経～40歳	0～40歳	思春期～
婚姻	既婚	未婚、既婚	未婚、既婚	未婚、既婚
治療期間	最短で2～3週間	最短で2～3週間	3～5日間程度	1～2日間
費用	30～50万円（自費）	20～40万円（自費）	60～70万円（自費） （+移植 60～70万円（自費））	3～5万円（自費）
出産例	日本だけで年4万例 （一般的な不妊治療と同様）	世界で6,000例以上	世界で100例以上	多数

山形大学病院の妊孕性温存療法パンフレットを作成

特徴

利点

問題点

①がん治療による卵巣機能低下と、経期的な診察・処置が必要

②がん治療による卵巣機能低下と、経期的な診察・処置が必要

③東北大、聖マリアンナなどに紹介が必要

④精子採取可能、⑤凍結精子を使用する際のパートナーの身体的負担（異種授精）がある、⑥精巣内精子採取が必要な場合がある

※担当状態や既往疾患、患者年齢、不妊症などにより、卵巣機能低下の程度や処置がトラウマになる可能性がある

● 助成金制度（窓口：山形県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課）

治療対象	助成上限額/1回（回数制限）	治療対象	助成上限額/1回（回数制限）
胚（受精卵）凍結	35万円（2回まで）	卵巢組織凍結	40万円（2回まで；組織採取+再移植時）
（未受精）卵子凍結	20万円（2回まで）	精子凍結	2.5万円（2回まで）
		精子凍結（精巣内精子採取）	35万円（2回まで）

※温存後治療の助成金制度も別にあります

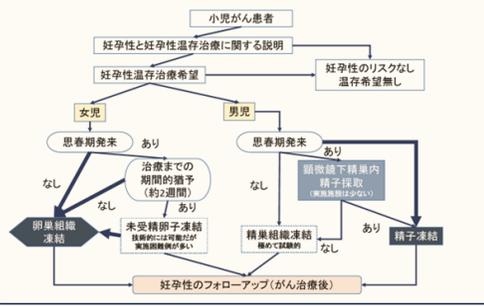
紹介前のお願い

- 時間的な猶予があればあるほど、提案できる治療法の選択肢が増加します。
- 男女ともに、**早めの紹介・受診**の調整をお願いします。女性も**月経周期に関係なく**治療提案可能です。**組織診断確定前のご相談**でも大丈夫です。
- 未成年**であれば**ご本人+親の受診**、**ご夫婦（パートナー）**であれば**お二人での受診**をお願いします。
- 産婦人科外来に問診表がありますので事前の記入をお願いします。
- 下記の情報について教えてください。

患者・家族の妊孕性温存療法の希望、原疾患の病期と予後、予定される治療（化学療法レジメン、種類、総投与量（㎡）、放射線治療の有無、照射部位と照射量）、原疾患の治療開始までのスケジュール・猶予期間、女性（女兒）：性交渉の有無、男性（男児）：射精の可否、その他必要と思われる情報

患者さんがいらっしゃいましたら・・・
産婦人科当番医（PHS:6261）経由で生殖医療グループ医師（松川/竹原/西/中村）までご相談ください

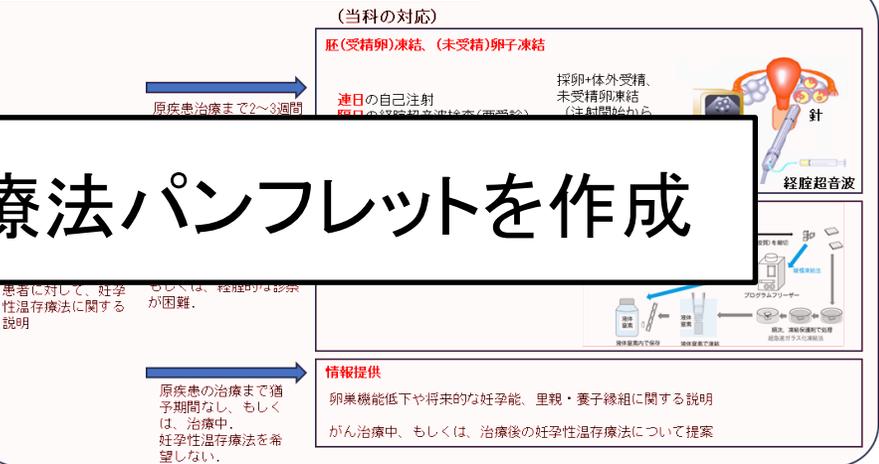
一般的な小児患者の受診のフローチャート



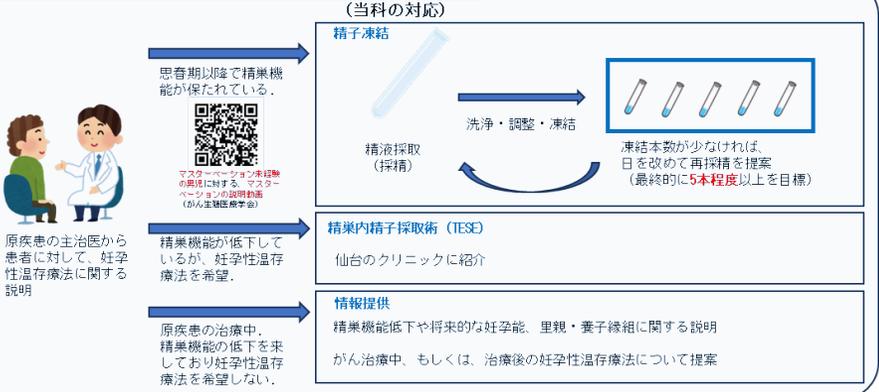
小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存療法説明資料集

- 小児女児用妊孕性温存説明（がん生殖医療学会）
- 思春期女性用妊孕性温存説明（がん生殖医療学会）
- 思春期男性用妊孕性温存説明（がん生殖医療学会）

女性患者の当院での受診のフローチャート



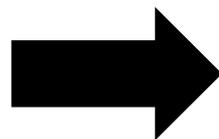
男性患者の当院での受診のフローチャート



ワークショップ開催後の変化②

前

- カウンセリング時に看護師の立ち合いなし
- 比較的時間に余裕のある症例でも治療開始直前の紹介が多かった
- 性腺毒性リスクは生殖医が調べて説明
- ご紹介いただく施設は限定的



後

- カウンセリングには専門看護師が立ち合い。(がん診療科の説明の段階でも、がん相談室看護師が関わるように)
- より早期の紹介が増えた(生検結果の出る前、治療の内容確定前など)ため、妊孕性温存の対象が拡大した
- がん治療医が紹介状に、性腺毒性リスクに応じた、治療内容を詳細に記載してくれる
- これまでにご紹介のなかった施設からもご紹介いただくように

ワークショップ開催後の変化②

がん・生殖ネットワーク事務局を山形県に置くことが決定！（2024年4月～）

- 県担当者にコアメンバーとなってWSに参加してもらったことで、モチベーション向上！ 約4か月で、立案→採用という快挙を成し遂げた！
- 要綱を作成 →山形県がん・生殖医療ネットワークの役割、組織の明確化
- 相談体制、意思決定支援整備、総会・研修会の開催

要綱を制定

山形県がん・生殖医療ネットワークの役割、組織の明確化

山形県がん・生殖医療ネットワーク設置要綱

(趣旨)

第1条 山形県内におけるがん等の治療及び生殖医療に従事する医療機関、行政機関等が互いに連携して、小児・AYA世代のがん等患者やその家族に妊孕性温存に関する正しい情報を提供するとともに、妊孕性温存療法及び妊孕性温存療法により凍結した検体を用いた生殖補助医療等（以下「温存後生殖補助医療」という。）を円滑に実施するための連携体制を構築するため、山形県がん・生殖医療ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）を設置する。

(掌握事項)

第2条 ネットワークの掌握事項は、次のとおりとする。

- (1) 妊孕性温存に係る情報交換及び情報発信に関すること
- (2) 県内各地域における相談体制の整備に関すること
- (3) がん等患者の意思決定を支援するための体制の整備に関すること
- (4) 妊孕性温存療法及び温存後生殖補助医療を円滑に実施するための連携体制の整備に関すること
- (5) 研修会や講演会の開催に関すること
- (6) その他ネットワーク発展のために必要なこと

(組織)

第3条 ネットワークは次に掲げる者で構成する。

- (1) がん等診療施設の医療従事者
- (2) 生殖医療施設の医療従事者
- (3) 山形県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課員
- (4) その他ネットワークが必要と認められた者

(代表)

第4条 ネットワークに代表を置き、構成員の互選により定める。
2 代表は、ネットワークの業務を総理し、ネットワークを代表する。
3 代表に事故があるとき又は代表が欠けたときは、代表があらかじめ指名する構成員がその職務を代理する。

(部門長)

第5条 第3条第1号から第3号に掲げる区分にそれぞれ部門長を置き、構成員の互選により定める。
2 部門長は、ネットワークの代表を補佐し、所属する区分を代表する。
3 部門長に事故があるとき又は部門長が欠けたときは、部門長があらかじめ指名する構成員がその職務を代理する。

(参加及び辞退)

第6条 ネットワークへの参加を希望する者は、参加申込書（様式1）を事務局に提出するものとし、参加申込書が受理された日をもって構成員となる。
2 ネットワークからの退会を希望する者は、退会届（様式2）を事務局に提出するものとし、退会届が受理された日をもって構成員でなくなる。

(変更)

第7条 構成員は、氏名、所属等に変更が生じたときは、変更届（様式3）を事務局に提出するものとする。

(会議)

第8条 代表は、必要に応じて構成員を参集し、第2条各号に規定する事項について意見を聴くことができる。
2 代表は、必要に応じて構成員以外の出席を求め、意見を聴くことができる。

(書面による開催等)

第9条 代表は、特に必要があると認めた場合は、書面をもって意見を聴くことができる。

(関係機関との連携)

第10条 ネットワークは、必要に応じて、他の都道府県や関係学会等と連携を図るものとする。

(事務局)

第11条 ネットワークの事務を処理するため、事務局を山形県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課に置く。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、ネットワークの運営に関し必要な事項は、代表が別に定める。

附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

総会・研修会の開催

18:00～開始予定

開始まで少々お待ちください

令和6年5月30日（木）18:00～19:00
山形県がん・生殖医療ネットワーク総会

次第

- 1 山形県がん・生殖医療ネットワークについて
- 2 役員選出
- 3 がん診療施設から生殖医療施設への紹介の流れ
- 4 治療費助成制度
- 5 その他

令和6年度

山形県がん・生殖医療ネットワーク研修会

12月11日（水）18:00～19:00

参加費無料 オンライン(zoom)開催

➤ 症例発表①

「当院血液内科における妊孕性温存依頼症例」

発表者：山形県立中央病院 血液内科 医長 奥山修平 先生

➤ 症例発表②

「妊孕性温存の凍結胚全使用後に採卵し妊娠した1例」

発表者：山形大学医学部附属病院 産科婦人科学講座 外来医長 松川淳 先生

【受講対象者】がん診療や生殖医療に携わる
医師、看護師、がん相談員等

山形県がん・生殖医療ネットワークとは・・・

県内におけるがん等の治療及び生殖医療に従事する医療機関、行政機関等が互いに連携して、小児・AYA世代のがん等患者やその家族に妊孕性温存に関する正しい情報を提供するとともに、妊孕性温存療法及び妊孕性温存療法により凍結した検体を用いた生殖補助医療等を円滑に実施するための連携体制を構築するもの（詳しくは県ホームページをご参照ください）

事前に参加登録をした方に限りご参加いただけます。
12月6日（金）までにお申込みください。

【問合せ先】

山形県がん対策・健康長寿日本一推進課
疾病予防担当 村山
TEL：023-630-2919
E-mail：murayamakot@pref.yamagata.jp

お申込みはこちら



やまがたe-申請ページ

主催 山形県がん・生殖医療ネットワーク
(事務局：山形県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課)

当科における妊孕性温存療法施行症例(2021年4月～現在)

精子凍結(29人)

年齢	疾患	年齢	疾患
33	AML	37	悪性リンパ腫
19	悪性リンパ腫	17	ALL
29	ALL	16	悪性リンパ腫
25	悪性リンパ腫	35	精巣がん
25	精巣がん	26	肺がん
26	悪性リンパ腫	17	AML
14	骨肉腫	35	精巣がん
38	悪性リンパ腫	38	精巣がん
16	精巣がん	46	AML
24	悪性リンパ腫		
16	悪性リンパ腫		
24	縦隔腫瘍(セミノーマ)		
30	悪性リンパ腫		
24	再生不良性貧血		
31	AML		
20	肺がん		
23	縦隔腫瘍(セミノーマ)		
23	Ewing肉腫		
27	CML		
21	精巣癌		

卵子凍結(5人)

年齢	疾患
22	卵巣がん
21	AML
39	乳がん
35	乳がん
39	乳がん

胚凍結(13人)

年齢	疾患
41	乳がん
31	乳がん
32	乳がん
39	虫垂がん
38	乳がん
33	乳がん
32	乳がん
37	乳がん
31	乳がん
22	乳がん
39	乳がん
34	乳がん
38	乳がん

68人の患者さんをご紹介いただきました！

- 妊孕性温存 47人
- カウンセリングのみ 16人
- 凍結できず 5人

3人の方が出産されました！

ご紹介いただいた病院

- 山形大学
- 新庄病院
- 県立中央病院
- ゆめクリニック
- 日本海総合病院
- 置賜総合病院
- 山形市立病院済生館
- 北村山公立病院

まとめ

- 山形県では2021年にがん・生殖ネットワークを立ち上げたが、実際はネットワークは構築できておらず、生殖医の一人歩きという印象であった
- OCjpnからミニワークショップ開催の提案を受け、準備をするうちに自然とネットワークが構築できてきた
- ミニワークショップを経て、がん治療医が主体的に妊孕性温存の可能性について考えてくれるようになった
- ミニワークショップを経て、ネットワーク事務局を県に置くことが決定した
- 妊孕性温存により3人の患者さんが出産された

謝辞

発表の機会をくださった、本ワークショップ開催に関わる皆様に感謝申し上げます。

